

# 東京白楊だより

第32号

平成21年.8.29  
(2009年)



白楊ヶ丘同窓会東京支部

旧制函館中学校 函館中部高等学校

ホームページアドレス <http://www.h6.dion.ne.jp/~kanchu/>



撮影者：67期 松田幹夫（2008.8.7撮影）旧函館ドック跡地の大型クレーン2基は2009.6.18より撤去解体された。

## 支部長ご挨拶



白楊ヶ丘同窓会東京支部長

安田 康次

67期（昭和40年卒）

皆様にはますますご清栄にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

昨年、アメリカのサブプライムローン問題から始まった経済不安は、国内にも広まり、雇用問題など現役の皆さまにとってはますます厳しい状況で、大きな不安となっていることと思います。そんな中、今年も無事親睦大会が開催できることを、たいへんうれしく思っております。

早いもので支部長就任後、あっという間に二年が過ぎましたが、中々同窓会の諸課題を解決すべく良い方向に進まず、悩み多く過ぎております。どこの支部も同様の問題とは思いますが、会員の減少（会費納入者の減少）にこのままでは、東京支部の存続まで考えていかねばいけない状況に悩みつつ、いかに楽しい魅力ある同窓会にしていくか努力しております。

もう一つ大きな課題は同窓会事務所の移転問題です。4月の評議員会で概略説明させていただきましたが、現在、52期福津先輩のご好意で、長年、事務所を提供していただいておりますが、このままだでもお借りしているわけにはいかず、今年度中に移転することになりました。まだ具体的な場所は見つかっておりませんが、会員の皆様で事務所として使わせていただける方がいらつしゃれば幸いです。お心当たりのある方は是非ご一報賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。今年の親睦大会は、79期生（S52年卒）が幹事期となり、今年初めより頑張って準備を進めております。楽しい会になるものと期待しております。幹事の皆様、有難うございます。

最後になりますが、現役員一同は、若手の会員にも、より多く参加してもらえような会になることを目指しております。これからも、なお一層、同窓会の発展に努力してまいりますので、皆様のご指導、ご協力そして応援をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

# 真のエリートを育て 世界に発信できる高校を

函館中部高等学校長 黒田 信彦



本道には進学校と呼ばれている高校が札幌市や各地方都市に存在しているが、その中でも函館中部高校は実に面白い学校である。何が面白いかと言えば、明るく素直で余力があつて、将来が楽しみな生徒が大変多い。そして教職員は

共通の思いで生徒の進路に責任を持ってしっかりと取り組んでいただいてる。しかし、市内には本校と切磋琢磨しながら学校の特色を打ち出し、進学実績を上げていく私立高校や専攻があり、高校受験の際には私学の推薦入試の合格などにより本校受験の辞退者が例年多く、他の都市部の進学校とは様相が大きく異なっている。現在、少子化が急速に進んでいる中で、本校に対する期待に応え目に見える成果を出さなければ、中部高校と言えど安心してはいられない。私は校長であると同時に本校の卒業生として、中部高校は常に全道のトップクラスを維持できる学校でなくてはならないと思っており、一部の生徒が受検辞退したり合格後に他校に行ったとしても、本校の生徒には卒業時に逆転している学力を育成し、進路実現を図ることが本校が頂点に定まるための必要な条件だと思つている。本年4月に教職員に対して国公立大学の現役合格者数から分析した現状と

## 国公立大学現役合格者数（平成20年3月卒業生）の分析から見えた本校の役割

### 1 実態分析

1クラス当たりの現役合格者数(人)	道外国立大学占有率(%)	地元大学への合格者数(人)
札幌東 22.8	函中部 61.5	小樽潮陵→小樽商大 30
旭川東 19.6	岩見沢東 43.6	帯広柏葉→帯広畜大 17
帯広葉 19.6	旭川東 37.4	旭川東→旭川医大 15
札幌北 19.5	札幌南 32.4	室蘭栄→室蘭工大 14
室蘭栄 19.3	室蘭栄 31.9	北見北斗→北見工大 10
北見北斗 19.2	北見北斗 29.6	
札幌西 18.1	帯広葉 29.4	
岩見沢東 17.7	小樽潮陵 18.0	
函中部 15.7	札幌東 17.5	
小樽潮陵 14.4	札幌北 16.9	
札幌南 13.9	札幌西 13.4	

### 2 本校の置かれた厳しい状況と課題解決に向けて

#### (1) 地元へ大学がない

教員養成課程のない教育大学と工学系に特化した未来大学では進路は限定される。それに昭和48年（1973）の医科大学誘致合戦で旭川に設置した影響が残っている。

函館には大手企業がなく大学卒業後の就職先が少ない。

(2) 私立高校（ラ・サール、白百合、遺愛）と専攻の根強い人気と進学実績

私立3校はブランド校のイメージが強く、親や兄弟が卒業した高校への進学希望者が多い。また、少子化の中で私立は生徒募集にあるの手この手で迫っており、セーラー服に憧れて私立に流れる生徒もいる。医者の子どもは私立に行く傾向が強く、私立では毎年コンスタントに医学部や東大に合格させている。旭川、帯広、小樽、室蘭、釧路などにも私立はあるが、大学進学の実績は函館の私立とは比べものにならない。

し、その実績が現れて初めて中部は内外から認められることになる。自主自立、自由闊達な精神は生かしつつも、本校の役割を踏まえ「目を向けさせる指導」が必要であり、医学部進学と海外大学進学が当面の大きな目玉になる。そのための教師陣は相当充実させている。本校に対しての期待は大きく、成果が問われている。成果が上がった学年団があれば、それを吸収して真似してさらに改善しなければ一過性の結果に終わってしまう。組織的、計画的、意図的に実行しなければ空回りするだけである。日本一の学校を目指せる要素は十分に揃っている。駒大苦小牧が良い例である。北海道は雪のせいで練習できないとか、グラウンドを使える時間が少ないとか、負けたときの理由ばかりを述べてきた。チャレンジ精神がなく2〜3回勝ち進めば「まあこんなものだ」と満足していたところにそれ以上の進展はなかった。

(3) 北大よりも本州に目がいっている生徒が多い

道外を希望すればそれだけ厳しい受験競争になり、高望みして浪人する生徒が多いが、浪人後に国公立に合格する生徒は少ない。

札幌市内高校は、北大に進むのが経済的にも無難で当然という風潮が強いが、中部は昔から私立大学希望者も多く有名難関私大に挑戦し実績は上がっている。

(4) 勉強に真剣に取り組む時期が遅い  
初心を忘れてしまう生徒もいて文武両道とは名ばかりになっており、中部に入っただけで満足してしまいう生徒も見られる。対外試合に慣れずおらず札幌のように予備校がない影響も大きい。しかし、素直な生徒が多いので、鍛え方次第でどこまでも伸びる可能性がある。

#### (5) 課題解決に向けて

入学時に他校と差があつても卒業時には逆転できる学力を育成



北大合格者の倍増でも、国公立大合格者の倍増でもない。何か大きな目標を据えてそれに向かってい



けばそのことだけにとどまらず全てが良い結果に繋がっていく。数字が全てではないが、数字は正直で動かすことができないものである。本校の学校行事は伝統的であり安易に減らさない方がいい。何故ならば、勉強時間が少ないから行事を削ってみてどれだけの成果が期待できようか。人格の完成に向けた幅広い教養と高い学力を身につけることが出来る生徒が揃っているはずである。そういう力強い人間を育てるのも本校の大きな役割である。

生徒の進学希望先にもよるが、現役で合格させるのは教員の力で、浪人して合格させるのは予備校の力である。良い指導者に巡り会えば部活動の成績も飛躍的に伸びているし良い指導者に巡り会えば大学入試の成績は飛躍的に伸びている。「教育は人なり」に誤りはない。

入試を戦うには個人の成績の伸長だけを見るのではなく、競争相手の学校の状況分析を欠かすことなく戦略をもって臨まなければ結果は付いてこない。



# 第32回 親睦大会 報告

平成20年に開催された親睦大会は、78期が～Discover函中 わが街函館～というイベントを企画しました。幅広い年齢層の皆さんの耳に馴染みの深いスタンダードナンバーのライブ演奏あり、歳を忘れて夢中になるクイズゲームあり…の楽しいひとときを、75歳の年齢差を超えた二百数十名の“同窓生”が共有しました。

昨年の親睦大会は、昭和51年卒・第78期がイベントの企画を担当しました。1年前の夏の会場探しから始まり、2月9日～10日は真冬の日光で1泊2日の合宿。毎月1回土曜日の午後、東京事務所をお借りして話し合いを重ねてきました。「東京白楊祭」をテーマに、幅広い年齢層の皆さんに楽しんでいただける内容を考え、ライブ演奏とクイズ大会を柱に進めていきました。遠方の仲間からはメールで協力やアドバイスをもらいながらスライドショーも制作し、終盤は連日連夜メールでチェック、手直しなど親睦大会当日の朝まで作業をした甲斐があつて、思い出に残る大成功の親睦大会となりました。以下、詳細を報告させていただきます。



旧制函中の皆さんの校歌斉唱



「乾杯!」35期佐藤さん

司会は、78期・岡部あさ子が務めました。開会宣言のあと、52期以前の旧制函館中学校ご卒業の皆様に登壇していただき、同窓会歌（旧制・函館中学校の校歌）を出席者全員で合唱し、オープニングを飾りました。歌唱リーダーは77期の相澤有一氏、ピアノ伴奏は78期の島津路郎氏です。続いて67期・安田康次支部長より「61期の前支部長・金子さんから引き継いでまだ1年足らずです。ご来賓の方々をはじめ、最年長の35期から今年卒業の110期まで75年の差がある、同窓会ならではの集まりに多数ご参加いただき大変感謝しています。」とご挨拶がありました。次に16名のご来賓の方々の紹介があり、来賓を代表して、函館中部高等学校教頭の本庄幸賢先生から「東京支部の同窓会に2回出席できたことを光栄に思います」とご挨拶いただき、「海外4大学との連携、医進類型の設置、北海道から世界に発信できる高校として、国内や世界からも注目を集め、飛躍しているところです。」と黒田信彦校長先生のメッセージを代読いただきました。

続いて、35期の佐藤洋氏から「松本市で開催されたシニアのテニス大会、90歳の部で優勝しました。」と報告があり、佐藤氏の音頭で乾杯、歓談に入りました。歓談の間、函館市役所財務部長・片岡格氏（75期）より、ふるさと納

税のお知らせがありました。また、スクリーンでは78期が制作しましたスライドショーで、懐かしい母校、函館の風景をお楽しみいただきました。いよいよアトラクションです。ラヴシックス（78期の清野たかしさんと奥様の清野寿美代さん）の素敵なステージが始まりました。「百万本の薔薇」「ムーンリバー」「テネシーワルツ」「ペーパームーン」と心暖まる、懐かしい歌を届けて下さいました。オリジナル曲の「Good Bye Old Days」も函館の風景が浮かびます。最後「川の流れるように」は会場の皆さんも口ずさんでいました。



ラヴシックスのお二人

続いてテーブル対抗・奇問、珍問クイズ大会です。初めての試みなので、不安を抱えながらでしたが、同期の仲間がチームワークよく、同期の仲間がチームワークよく、理事の加納さん、白川さん、桑原さんにもご協力いただいたおかげで、一つ一つのクイズに歓声があがり、会場が一体となり予想以上に盛り上がったことに感無量でした。問題は三択で、問題が表示されたらチームで30秒考えて札を上げる方式です。テーブル担当者がかぶっていた学生帽は一昨年77期の先輩が作成した大作です。簡単にクイズと答えを紹介します。①これまで、我が母校が夏の全国野球大会に出場した回数は？  
(1) 1回 (2) 2回 (3) 3回  
正解は(2)2回です。  
②函館市の人口がピークを記録したのは、いつのことでしょうか？  
(1) 昭和50年（1975年）  
(2) 昭和55年（1980年）  
(3) 昭和60年（1985年）  
正解は(2)昭和55年です。  
③外人墓地の近くにある、函館では一番古い寺院、高龍寺はどれでしょう。  
写真なので正解は省略しますが、他に東本願寺船見別院、実行寺本堂を映しました。  
④「ラッキーピエロ」に、実際に



担当期78期の皆さん



安田支部長

あるハンバーガーメニューはどれでしょう？

- (1) イカ刺しバーガー
- (2) イカ踊りバーガー
- (3) イカポッポバーガー

正解は(2)イカ踊りバーガーです。

⑤ 1976年9月6日、ロシア(旧ソ連)のベレンコ中尉が操縦するミグ戦闘機が函館空港に強行着陸しましたが、その戦闘機の機種は、次のうちどれでしょうか？

- (1) ミグ21 (2) ミグ23 (3) ミグ25

正解は(3)ミグ25です。  
⑥ 函館の五稜郭以外に、日本には五稜郭はいくつあるでしょう  
(1) 0箇所 (2) 1箇所 (3) 2箇所  
正解は(2)です。

クイズの景品は、78期の有志が持ち寄りました。とても有難いことに52期の瀬田松吉昭氏、63期の土橋道子さん、69期の梅田やよいさんよりたくさんさんの景品を提供していただきました。  
宴も終盤を迎え、新入会員である110期生(6名)の自己紹介があり、



- 昭和8年卒 (35期) 佐藤洋
- 昭和16年卒 (43期) 神山茂郎
- 昭和18年卒 (45期) 池上謹之助 大櫛淳
- 田沼修二
- 昭和20年卒 (47期) 堀田善和
- 昭和23・24年卒 (51期) 小野寺吉彦 近藤充夫
- 三國比左男
- 昭和25年卒 (52期) 井上稔 小泉龍彦
- 瀬田松吉昭 長島康
- 福津達男 二上達也
- 昭和27年卒 (54期) 澤口 幹男
- 昭和28年卒 (55期) 阿部健 加藤富蔵
- 滝沢(中村) 滋子
- 栗崎健一
- 昭和29年卒 (56期) 藤本一郎 塚本弘子
- 阿部(清都) 農子
- 昭和30年卒 (57期) 鶴島克孝 櫻庭晃
- 武田有弘 吉田精吾
- 松川(原) 澄子
- 昭和31年卒 (58期) 五十嵐克至
- 岩間征一郎
- 小川英夫 近藤好介
- 佐々木政良 坪田憲俊
- 永野巖 広田洋吉
- 藤原正樹 山本善治
- 唐沢(藪崎) フミ子
- 下里(増田) 昱子
- 早川(岡) 光江
- 宮川(重野) 美智子
- 昭和32年卒 (59期) 小林重行 野村隆司
- 真船昭
- 昭和33年卒 (60期) 上平慶一 北原耕太郎
- 内藤尚 山根信子
- 松田(木下) 栄美子
- 昭和34年卒 (61期) 相澤貞俊 大久保泰宏
- 金子公彦 菊池紀邦
- 松本允 畑中万弘
- 橋本正夫
- 昭和35年卒 (62期) 池上拓磨 市丸大平
- 辻明
- 昭和36年卒 (63期) 中村崇
- 土橋(山本) 道子
- 昭和37年卒 (64期) 上田健司 大原淳一
- 関英夫
- 片岡(阿部) 洋子
- 佐々木(中村) 京子
- 昭和38年卒 (65期) 小嶋正蔵
- 昭和40年卒 (67期) 花海吉夫 松田幹夫
- 安田康次
- 昭和41年卒 (68期) 木戸正文 及能誠一
- 横田依早弥
- 大河原(小沢) 綾子
- 昭和42年卒 (69期) 梅田五郎 佐藤一廣
- 渡辺敏正
- 梅田(上野) やよい
- 斎藤(三上) 裕子
- 山本(石橋) 陽子
- 昭和43年卒 (70期) 石黒秀喜 佐藤和明
- 佐藤勝義 高橋裕司
- 昭和44年卒 (71期) 加納元雄 相馬篤
- 昭和45年卒 (72期) 神垣善一 菊地佳裕

# 親睦大会出席者一覧

(青山ダイヤモンドホール)

- 昭和32年卒 (59期) 小林重行 野村隆司
- 真船昭
- 昭和33年卒 (60期) 上平慶一 北原耕太郎
- 内藤尚 山根信子
- 松田(木下) 栄美子
- 昭和34年卒 (61期) 相澤貞俊 大久保泰宏
- 金子公彦 菊池紀邦
- 松本允 畑中万弘
- 橋本正夫
- 昭和35年卒 (62期) 池上拓磨 市丸大平
- 辻明
- 昭和36年卒 (63期) 中村崇
- 土橋(山本) 道子
- 昭和37年卒 (64期) 上田健司 大原淳一
- 関英夫
- 片岡(阿部) 洋子
- 佐々木(中村) 京子
- 昭和38年卒 (65期) 小嶋正蔵
- 昭和40年卒 (67期) 花海吉夫 松田幹夫
- 安田康次
- 昭和41年卒 (68期) 木戸正文 及能誠一
- 横田依早弥
- 大河原(小沢) 綾子
- 昭和42年卒 (69期) 梅田五郎 佐藤一廣
- 渡辺敏正
- 梅田(上野) やよい
- 斎藤(三上) 裕子
- 山本(石橋) 陽子
- 昭和43年卒 (70期) 石黒秀喜 佐藤和明
- 佐藤勝義 高橋裕司
- 昭和44年卒 (71期) 加納元雄 相馬篤
- 昭和45年卒 (72期) 神垣善一 菊地佳裕







次回担当79期高橋氏の挨拶

爽やかな挨拶に諸先輩方から「がんばれよ」とエールがありました。続いて翌年の幹事期である79期の高橋政章氏から「来年も盛大に集まることを願います」とご挨拶がありました。

最後は全員で校歌斉唱です。歌唱指導は土橋道子さん、伴奏は島津路郎氏です。

懇親会の締めは9名もの参加者があった97期の皆さん。音頭は松川文弥氏にお願いし「これからはこの力をもっともって皆様に貢献したい。」と若さ溢れる元気な三本締めでお開きとなりました。

受付では、ラヴシツクのCD、うぐみ（98期の山形夕佳さん）のCD、69期安藤牧子さんのカレンダー、中部高校の「白楊魂タオル」の販売をしました。

末筆ではございますが、「函館市役所、サッポロビール様からワインのご提供をいただきましたので、この場をお借りして御礼申し上げます。

【78期 岡部あさ子記】



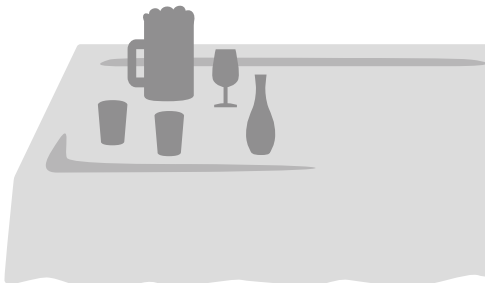
最後の校歌斉唱



三本締めをした97期・松川氏

- ✓ 小林繁治 丹羽修
- 村田秀樹
- 佐野（小岡）香苗
- 昭和46年卒（73期）
- 倉田秀人 戸来伸一
- 森山耐介 山田朗
- 諸岡明 高田恵子
- 昭和48年卒（75期）
- 祐川伊左久 増田博幸
- 八木毅 吉川忠幸
- 桑原洋子
- 昭和49年卒（76期）
- 新井信隆 黒川和俊
- 近藤弘 下國直人
- 白川正広 曾我正彦
- 高野勝弘 平井正夫
- 山野三紀
- 高崎（古谷）美也子
- 昭和50年卒（77期）
- 相澤有一 小林広武
- 吉崎収 若生直
- 昭和51年卒（78期）
- 一戸昌則 垣坂清
- 清野たかし 佐藤芳
- 島津路郎 下田真靖
- 斯波宇司 関口勝也
- 高橋邦明 滝花義雄
- 立野泰昭 長澤一徳
- 松田司 宮崎恒春
- 岡部（三浦）あさ子
- 柴山（相馬）智恵子
- 塚本（伊藤）良子
- 武藤（星野）真木子
- 山内（藤島）清美
- 吉崎（丸山）加代子
- 昭和52年卒（79期）
- 斉藤泰 高橋政章
- 西田（畑野）勢津子
- 昭和53年卒（80期）
- 片瀬裕巳 齊藤聡

- 昭和54年卒（81期）
- 石田人士
- 昭和56年卒（83期）
- 松山哲人 嶋田典子
- 田口（新沼）志保



## 第32回・東京支部

（平成20年10月18日）

- 平成2年卒（92期）
- 服部（西澤）州恵
- 平成4年卒（94期）
- 山栄理子
- 平成6年卒（96期）
- 山田大介
- 平成7年卒（97期）
- 大川憲太郎 坂爪洋
- 藤原義紀 松川文弥
- 小鹿由紀子 妹尾香雪
- 東山峰子 藤巻静香
- 藤原（蝶野）倫子
- 山谷（田澤）琴美
- 平成8年卒（98期）
- 高波恵美
- 平成13年卒（103期）
- 田上温子 繁里わか奈
- 平成15年卒（105期）
- 小林秀輝
- 平成16年卒（106期）
- 千葉茂樹
- 平成17年卒（107期）
- 岩谷陽太
- 平成18年卒（108期）
- 齋藤将平 中川将吾
- 山本晃平 斉藤有美
- 住吉未久 永田明日香
- 田上遊子 北村葉月
- 平成19年卒（109期）
- 岩戸景太 上田遼平
- 遠藤康平 藤村莞
- 堀口貴弘 松村亮祐
- 泉万優子 齊藤由真
- 坂井悠 竹村歩美
- 長尾麻里菜 成田美穂
- 橋本真樹
- 平成20年卒（110期）
- 川端昭平 佐藤一樹
- 丹波涼二 本間真平



ニューフェイスたち



# 随想

## わが故郷

—函館・街・人・思い出—



### 函中六年間の思い出／後編

52期（昭和25年卒）

福津 達男

#### Ⅱ終戦・暁部隊に乱入Ⅱ

イタリアのムッソリーニ処刑・ドイツのヒットラー自殺・ドイツ無条件降伏と戦争はいよいよ末期症状を呈する中、二年生になった。幼年学校進学の為、軍人組が一級出来、入ったが異様な雰囲気ですぐ逃げ出そうと大竹先生に頼んだ。日が悪くても主計学校があると言いながらも気持ち悪く察してくれた。もともと先生は軍人組の進学教室をつくるのには反対だったようだ。

そして岸田級に編入、一番前の席に座らせられ、国文と教練を教わり戦争が終わっても銃剣術をやらせられた。岸田先生九十八才未だ健在である。

やがて勤労奉仕・学徒動員で伊達紋別の援農や赤川の飛行場建設、日通及び駅構内荷役に駆り出される。棧橋近くの家屋を解体していたら中国人の捕虜が三・四十名数珠つなぎ

で船から降りてきた。これから炭鉱の労働として連れて行かれるのか、みな素足でうつろな目をしていたのが靡げながら暗い記憶としてある。

函館山は要塞があるという事で写真やスケッチは禁じられて居り、三分以上眺めていたら憲兵に連れて行かれるという話もあった。また、書物や写真も津軽要塞司令部の検閲が必要であった。この頃読んだプロレタリア作家小林多喜二の「蟹工船」は検閲の為、××が多く、よく解読出来なかった。

七月十四日、早朝より米軍艦載機三百〜四百機の波状襲撃をうけ函館湾停泊の船舶大半が沈む。各所で火災発生、マルミの肉屋跡には掃り鉢の形をした大きな穴があいていた。函館山から撃つ高射砲は、敵機に全然届かない。何機かは撃墜するだろうと思っていたのに、すっかり期待を裏切られた。

この頃から毎日暁部隊の防空壕掘りに従事する。暁部隊は陸軍であるが、軍需武器輸送や敵前上陸奇襲作戦の為につくった船舶隊であった。

八月六日、広島に原爆投下。八月八日ソ連は日ソ不可侵安全条約を一方的に破棄、対日宣戦布告をする。八月九日長崎に原爆投下。

八月十五日、何時もの様に防空壕を高女（西高）の裏で掘っていたら、暁部隊の下士官がラジオを持ってきて天皇陛下の大事な放送があるから聞く様にとの事。真夏日の正午、蟬の鳴き声がひととき高鳴っていた。雑音が入りよく聞きとれなかったが「戦争は終り、日本は負けた」という。蟬の音が途絶えた瞬間の静寂、時間が止った様な不気味な感じが「生きる張り合い」を奪った。

足に巻きつけたゲートルも外れ、足下は軽くなったが空しいやり場のない気持ちには暫く消えなかった。そんな時、前から当りをつけていた函館の側にある暁部隊の倉庫から軍需物資を掻き出すという事になった。少し前迄は見つかったら銃殺である。T君の後をこわこわ付いていく。あたりはうす暗く、目ざす倉庫にきたら兄が竦み、震えが止らない。T君が素手で木製の外壁を剥

すとバリバリと凄じい音がひびき渡る。途端に皆腰を抜き、小便を洩らしてしまった。

軍需物資の乾パンは大きすぎて味が良く、葡萄糖の固まりはとてつもなくうまかった。腰を抜かした連中も翌日は英雄である。

最初のアメリカ兵はニューヨーク部隊で背が高くジープに颯爽と乗っている姿を遠くから恐る／＼眺めていた。その頃、親父に定職がなく親戚流浪の旅が続き、叔父が経営する旅館の部屋を借りていた。その宇賀浦町にある第二若松が進駐軍の慰安所に指定された。毎日、札束が押入れに山と積まされるが、新門切り替えて紙屑同然となる。だが夜の嬌声と朝の寝乱れ姿は教育上まずいという事で、親父の実家である湯の川にある湯治場大湯温泉に引越すことになった。

或る日、寝坊したので近道を行こうとしたが、真冬で雪が積り、畑、田圃道が分らない。少年刑務所へ向って斜めに走った。ズブズブと雪に埋もれながら通り迄もう少しであった。ズボットと胸まで入った。なんでこんな所に大きな窪みがあるのだろうと、ようやく脱出した。なんとそこは「肥溜め」であった。蓋もなしなのでコンチキショウと思ったが、後の祭り。帰ってお湯をかけられたがなかなか臭いがとれない。外に競馬馬の骨折等治療する温泉があった。三日間、馬といっしょにその温泉に入られた。

校庭の右手に奉安殿があり校門をくぐるたびに直立不動して敬礼した。天皇の御真影、教育勅語は既になく、建物はやがて撤去される。修身、日本史、地理が回収され、他の教科書も黒々と塗り潰された。D D T 散布、海外からの引き揚げが始まる。軍国主義一色に呑み込まれた日本は解体されたが、これからのどの様に生れ変わるのだろうか。

#### Ⅱ野球部、全国大会に出場Ⅱ

中学三年になった。フランス映画をはじめ、洋画が続々と入ってきた。鮮やかな色彩と動きの速さは邦画にない目を見張るもので、鬼畜米英をすっかり忘れ、欧米の文化に貪欲に浸った。

文学青年関谷先生の級、若い情熱をぶつけてくれた。相沢、福島（愷）、中村（勝）、東出等々個性豊かなメンバーが多く高橋（光）君が「腕白」と名づけた級誌を出るだけ続けて作成しようという事になり、自分なりの文を独創的に考え、皆必ず載せようと先生の後押しもあった。こちらは作文は苦手、慌てて文学全集を乱読、芥川龍之介・鈴木三重吉等々からの文を繋ぎ併せてなんとか書いてみた。

関谷先生に「なかなかの出来栄じゃないか。どの様な構成を考え、苦心した事は？」と問われたが冷汗が流れる思いで、「ただなんとなく」としか答えようがなかった。何せ、あちこち寄せ集めた文で、自分の言葉は一つもないのだから内心忸怩たるものだった。

それでも六年間の学校生活で褒められたのは後にも先にもこれ一回きり。戦後の暗い気持ちをふっ飛ばしてくれたのはなんといいっても全国中学野球大会に出場した野球部の活躍だ。当時、甲子園はアメリカ進駐軍が使用していたので、やむを得ず西の宮で行われた。水上、飯田さんのバッテリー、沼沢、三國、山田、近



藤さん達、諸先輩は大スターであった。当時は内地勢と力の差は大きかったが、帰函した時は一段とスケールが大きくなって、高等水産学校（現北大水産学部）を軽く撃破する様になっていた。声を枯らして応援歌を歌った時だった。

やがて中学四年になり、四修で旧制高校を受験出来る最後であり、数人が二高、北大予科と進んだ。

### II 友情と先生の温情で卒業 II

翌年、自動的に高校二年になり、校名は道立函館高等学校となる。

その頃、親父の仕事がうまく行かず私だけが親類に居候していたが、肺炎で一学期の途中から二学期中頃迄休んだ。

その後、なんとか健康を取り戻し、もっぱらアルバイトに精を出した。ライオン石鹸、帝國製菓の荷造り発送や、市役所の土方工事、大體百八十円位、当時は一人前の大人が二百四十円（ニコヨン）であった。塩や石炭を積んできたエジプト船の船底から荷上するのが塩八百円、石炭千円、但し二十四時間労働だ。耳や鼻に石炭の粉が詰まるだけでなく衣服を通して体中が真っ黒、三日間風呂に入つてようやく取れる。さらに貨車三台分を角スコップで降ろす一万円に挑戦したがすぐに音をあげてしまった。寺西君はボクシングで三回迄倒れなければ二千円貰えるというのでボコボコに殴られながら頑張った。

やがて、高橋光明君の誘いで豚を養って売ろうという事になり、湊君、永井君も資金投入したが、飼育はもっぱら高橋君で、家業の豆腐のおからを食べさせて我々はたまに見に行くだけだった。

ただ、最後に保健所や屠殺場に払

う八百円が勿体ないので密殺しようという事になった。

豚の首に縄を巻きつけ、朝五時頃亀田を出発して夕方四時頃ようやく函館山に辿り着いた。豚はまっすぐ歩くが、横に曲がるとなかなか動かさずひと苦労した。交番を避けて行ったのだが、異様な姿に誰にも咎められる事なく、よく出来たものだ。

その中、大湯温泉の祖父が親戚流浪の形に見かねて千代ヶ岱交番横の古びた木造の家を買ってくれた。学校に近いので溜り場となり学校の様子を逐一知らせてくれた。

或る日、通知箋を届けてくれたので開いてみてびっくりした。上から下迄○だったので何時の間に○×△になったのだらうと思つてよく見たら、欠席多き為、採点不可能と書いてあった。○ではなく零点だったのだ。

東川君はじめ多くの友達か「代返」してくれたが先生はちゃんと解つていたので。

事務員の諏訪女史から「なんとか卒業出来そうなので、溜まっている授業料を払いなさい」と言われた。

「今、豚肉を売つているのでもう少し待つてくれる様に」と頼んだら、そんなの間に合わないから育英資金を使いなさいと、すぐに手続きしてくれた。

二上君は北海道代表で全国大会に行き将棋界では既に注目の存在だった。本人は大学へ行くか、プロの道に進むか悩んでいたが、菊池先生の「二上君は将棋を指している時は大きく見えるなあ」という一言をヒントに決心をしたという。

こちらは先生方の温情で卒業出来たものの、目的の定まらない出発は波乱万丈の人生の幕明けでもあった。

## 戦中から戦後の函中時代

52期（昭和25年卒）

瀬田松吉昭

### 物資の不足

今はものが豊富な時代で想像もつかないと思うが、入学して先ず必要とされる辞書が手に入らない。各クラス毎に何冊かの配給があつて、くじ引きで当たらないと友達から見せて貰わなければならなかった。上に兄弟姉があれればお下がりでも手に入るのだが、不自由なことであつた。そして、ある時古本屋で参考書を買いたいと思つたら、何でも良いから代わりの本を持つてくるように言われた。古本屋も本が不足していたのだ。ノートもなく、わら半紙を綴じて使用したり、学用品にも事欠いた。教科書も紙質が悪い上に折りたたんだまま配られて、断裁がされていらない。自分たちで端をカットして使用した。

それでも函中にも購買部があり、以前はパンなども売っていたようだが、その頃は僅か残った学用品を昼休みに販売したが、必要なものは殆ど手に入らない。推奨されたものは草鞋があつた。靴もなかなか入手困難だったので、江戸時代ではないが草鞋を勧められ、私も一度利用した。しかし朝徒歩で通学すると、すり切れてしまつて、帰りにはまた買わなければならぬという代物、一度で止めてしまった。

### 勤労動員

学徒動員令の発令によつて、中学生も何らかの形で勤勞奉仕。出陣しないまでも銃後の後方支援と言うこと。先ずは防空壕掘りのための資材

調達のために疎開の建物の取り壊し、そしてその古材を防空壕の骨組みに使用する。その取り壊しに出かけて行つた先の家屋が、小学校の同級生の家であつた。何とも言えない気持ちになつてしまった。取り壊しは羽目板を取り外して柱と梁だけになったところを、柱にロープを巻き付けて、大勢の人間で引つ張るとあつてなく倒壊する。その柱を担いで大森町から函中まで我々が運んだ。これが最初の仕事。二年になり赤川の飛行場建設。昼休みには下士官指導による軍歌演習をやらされた。このときに作つた掩壕には、もう飛行機はないのでベニヤ板で作つた模造の飛行機を置いて、未だ日本に飛行機があるように見せかけるのだと聞いて呆れてしまった。もう勝つことはなく、死ぬしかないなあと思きらめ的心境になった。

その後は援農に出かけたクラスもあつたが、私たちは赤川貯水池のダム工事、そして「暁部隊」の防空壕掘りと土木工事が続いたが終戦。暁部隊の仕事をしている最中に、グラマン戦闘機が飛来し、真つ先に防空壕に飛び込むのは、応召兵達であり、一緒に作業をしていた聾啞学校の生徒達は逃げ遅れ、私たちが誘導した。そして間もなく終戦。この間の出来事は書き尽くせないほどある。

### 敗戦と進駐軍の上陸

八月二日は函館八幡宮の例大祭。たまたま勤勞動員の交代時期で登校しているときだったが、例大祭の参拝と護国神社の武運長久の参拝があり、参拝が終わる元木校長から「本日天皇陛下の放送があるので聞くように」と言われた。そして敗戦となる。体育館に掲額されていた校訓「報本

## 午未の会

昭和36年卒業・63期

## 玄羊会

〈昭和25年卒業・52期〉

～卒業60周年～

## 傘寿の祝賀会

2010年6月26日(土) 17:00～

於：函館国際ホテル

## 第64期同窓会 東京支部

昭和37年卒業

反始「斃而不已」の額は降ろされた。九月二日に降伏文書の調印も終わり十月になって、連合軍が駐留するため函館にも上陸することになり、学校は無期限休校となって自宅待機をするよう指示された。そして危険だから上陸する連合軍部隊を見ないように注意をされた。私の家は電車通りに面しているため、上陸が始まると戦車やトラックそしてジープなど武器を構えた兵士が周りを睥睨しながら、轟轟と物凄い音を立てて夜通し通過していく。注意されてはいたが怖いもの見たさに板の間やカーテンの陰から覗いて見ていた。戦中に教育されていた「鬼畜」の感じからはほど遠く思われ、なにかホッとした気がした。無事上陸が終わったのか、無期限休校が三日ほどで終わってしまい、気が抜けてしまった。

### 平和と民主主義

つい先日までは軍国主義で、軍事教練など、また一億玉砕と戦うことを強いられていたが、一八〇度転換して、民主主義教育とすることになった。覚えてるのは高島小太郎先生が、リンカーンの有名な言葉を引用し、そして大政翼賛会は破棄されて政党政治が始まり選挙によって選ばれた人によって政治が行われると言うことだけが記憶に残っている。そして、後世まで有名になった教科書の「墨塗り」が始まる。このように価値観が全く変わってしまった。しかし子供は遅い。直ぐに新しい時代にとけ込んでいく。むしろ平和を楽しむ時代が来た。

### 映画の解禁

戦中は一般用として許可された映画以外は鑑賞を禁じられていた。例えば黒澤明監督の「姿三四郎」も恋

愛場面があるということで、非一般用と烙印を押されて、中学生は鑑賞禁止であった。それでも防空頭巾をかぶって、こっそり見に行っていたが、先生も見て見ぬふりをしていたのではないかと思う。

戦後は民衆は娯楽に飢えていたので、映画が全盛を極めることになった。記憶違いでなければ、有名な「リンゴの唄」が主題歌で「微風」という松竹映画がいち早く上映されたと思っている。引き続きは、欧米映画が次々と入ってきて、大門中心に賑わいだした。西部劇・フランス映画・ソ連映画なども。カラーになって珍しく、その美しさに見とれたものだ。最初のカラーの劇映画で函館で上映されたのは、ソ連映画「石の花」であったが、私が最初に見たカラーは英国映画「エリザベス女王の戴冠式」だったように思う。赤色が強烈であった。吉見君が映画研究部の部長で活躍、映画解説は見事であった。その他映画の話題は多すぎるので省略する。

### 理化研究部

私たち理化研究部は遊びみたいなものであったが、最初に手がけたのは「イカの臓腑」からエーテルで油を抽出し、苛性ソーダと反応させて石鹼を作ることだった。しかし石鹼は出来たが臭くって実用的なものにはならなかった。でも実験の後の手洗いは使用した。臭いを我慢しながら次に銀鏡を作ることにしたが、フラスコやビーカーのような曲面には、とても綺麗に鏡が出来るのに、平板のガラスはいくら苛性ソーダで磨いても班が出来て綺麗にはならなかった。一九四六年秋、戦後初めての文化祭の開催が決まり、皆で何か企画を

と考えて「プラネタリウム」を計画した。当時「プラネタリウム」は東京日々新聞社の本社と大阪の2ヶ所しかなく、勿論皆見たことはなかった。本で読んだ経験から想像して、垂木で枠を作りベニヤ板を張って、星座とおぼしき要所に穴を空けてラムネの玉（ビー玉）を取り付けて星にする。星座ごとに裏面にボール紙の枠で囲い、星座の枠ごとに裸電球をぶら下げる。星座ごとの電線は今で言えばリモコン式に操作できるように配線しスイッチを取り付けた。資金は東出功君（後に北大英文学教授）が予算を取ってくれた。

この作業は放課後にするのだが、時間が足りず、連日連夜遅くまで作業をした。当然空腹になるのだが、食糧不足の時代、今のようにパンだとか菓子類などあるわけではない。函中の前にお米屋があって、当時配給用にカボチャが店の前に積まれてあった。配給といってもカボチャは飽きられてきて、余りがあったので、分けて貰って煮て皆で食べながら作業したのが大変懐かしく思い出される。そして理科実験室には坂下君（後に北大の理学部教授）が一つの石を置いた。題してアイン・シュタイン。ドイツ語で一個の石という洒落だ。階段教室の天井にプラネタリウムをつり上げ試験点灯で天井に満天の星が現れ、そのまま当日を迎えた。廊下には小学生をはじめ大人達も大勢が並んだ。いよいよ始まる。菊池君（後に茨城大学教授）が、ギリシヤ神話を交えて星座ごとに見事な解説したので、熱心な観客で大盛況となった。入場制限し整理するのが大変であった。後日談だが菊池君とあのとき過重計算はしなかったが

よく持ったものだねと、冷や汗もので話したことがあった。

これが後に評価されて、翌年PTA（会長萩原文三氏）から表彰され、記念に天体望遠鏡を頂いた。そして更にこの望遠鏡を使って、昼休みなどを利用して「太陽の黒点観測」を続けることになった。それがきっかけで、一九四八年（昭和二十三年）五月札幌島で金環食があったとき、函館海洋気象台から観測記録を提出するよう依頼があった。五月九日、函館は97%ぐらいの蝕だったと思うが、時間を追っての変化の記録や、木漏れ日が三日月型になったり、鶏がトキをつくって鳴き出したり、カラスが鳴きながら山の方へ飛び去ったりといった自然現象の変化や時間を追っての欠け方などを記録して提出したことがある。卒業後に、この天体望遠鏡は後輩達が太陽黒点観測を続けて新聞紙上に掲載されたようだ。

### 学科選択制

一九四七年（昭和二十二年）私たちは四年生となる。学制改革が始まり、新制中学がスタートするので、新一年生は入ってこない。

そしてそれまでは北海道庁立函館中学校という名称。それが途中で十一月には北海道立函館中学校と名称が変わる。函中は未だ旧制のままなので、上級生は五年生までであった。高校に昇格するのを前提としたのか、旧制高校に習いクラスを文系と理系に分けることとなり、希望によってクラス編成が分けられた。私たちの学年は1・2組が文系3・4・5組が理系となった。授業もそれなりに編成が異なることになった。それと同時に選択講座制度が出来て、一部の授業で好きな学科を選択して受

## 株式会社イコー建設

一級建築士事務所

代表取締役 佐藤 一廣 (69期)

〒165-0033東京都中野区若宮1-28-1 野方会館2F  
電話: 03 (3223) 0168(代) FAX: 03 (3223) 0658  
mail: k-sato@f-rn.co.jp



株式会社宮川憲司建築事務所  
Environmental Planning & Design

桜美林大学 基盤教育センター

<http://www.k-miyakawa-arch.co.jp>



志丸会  
東京支部  
第67期 昭和40年卒業



けることが出来るようになった。私は数学1類を選択した。最初は六十名を超える人気の？クラスだったが、担当が豊岡先生で。毎回小テストを必ず実施するので、だんだんと減っていき二期はじめには半数になり、そのうちに一二、三名までになった。豊岡先生はこれで理想の教室になったと喜んで、ストープを全員が囲み個人指導的な授業になったのがとても懐かしく思っている。入学した一年生の時には、全員が床に座らされ答えが出来ないと椅子に腰かけることが出来なかったり、水をかけたりチョークを投げたりした先生とは思われない優しい先生に変わった。

### 新制高校スタート

一九四八年(昭和二十三年)高校二年編入という変則的な形になった。その為に私たちは中学の卒業証書というものは持っていない。また高校の入学式というものは経験していない。但し、希望者は旧制の五年卒も可能であったが、噂で一人だけあったとか、確かなことは判らない。

まずは高校になったというので、校歌と校章を新しく作ることにになり、生徒職員から募集された。その結果校章は岡崎金造先生の作品が採用され、中心に文字で「函高」を両側にポブラをデザイン化した現在の校章となった。また校歌は作詞藤原直樹先生、作曲酒井武雄先生による現在の「火柱のはためく峰」に始まる校歌が出来た。

クラス編成は旧制高校を真似て完全に理系・文系に分かれることとなる。一部の授業は選択制となる。私は二上君とはクラスが一緒になったことはなかったが、選択制の国語の

時間に一緒になったことがある。その頃は既に彼は将棋では強いと言いうことが有名になっており、一度昼休みに飛車角落ちで、更にこちらは安藤君と二人がかり。周りのクラスメイトも岡目八目でとかくの指図をする。しかし、歩が攻めてきて「と金」になるのをどうにも防ぐことが出来ず、完敗してしまった。改めて強さを認識した。その頃彼が作った詰め将棋は今でも忘れずに覚えているものがある。

この頃になると進学希望者はかなり勉学に励んだようだ。私は事情があつて進学について悩んだ末、高校三年の時断念して、就職組の特別授業「職業」科目を選択した。担当は水野先生で簿記を教わった。函中で簿記の授業があつたことを知る人は少ないのだが、私はこれをきつかけに、後に会計学を専攻するようになり、そして今日がある。

そして私たちは北海道立函館高等学校として最後の卒業生となった。その後は市内の公立普通高校三校が統廃合されて男女共学となり、函館中部高等学校と改称された。

### 奥尻島の徳洋記念碑

58期(昭和31年卒)  
広田洋吉

平成20年9月18日函館同期会に出席した帰途、江差追分全国大会を聴いた。この時期の江差町内の宿泊施設は前年から予約でどこも満員のため、奥尻島に泊まった。宿泊した青苗地区の旅館の付近を散歩中に高さ18mの徳洋記念碑を見て、その背景となった遭難事故に興味をもった。

1880(明治13)年7月30日、イギリス東洋艦隊旗艦アイアン・デューク号が函館から小樽へ向かう途中、濃霧のため奥尻島南端の青苗岬で座礁した。近代世界艦船事典によれば、訓練のため少尉候補生として乗艦していた有栖川威仁親王(戊辰戦争の新政府軍総司令官であつた熾仁親王の第4皇子)は青苗に上陸し、住民と乗組員との橋渡し役をつとめ、艦船の救助に奔走したとのことである。

また、当時付近を航行中のイギリス、フランス、ロシア3国の艦船も共同で救難活動に当たり、8月2日アイアン・デューク号は無事暗礁を脱出できた。このことはまさに国籍・立場を超え、海に生きる男たちが団結した救出劇であつた。各艦船からは歓呼の声が湧き上がり、ロシア艦からは楽隊の演奏がされた。この遭難事件から約50年後1931(昭和6)年、高松宮がこの史実に感銘し、海に生きる人々の

広々とした心を称え、直筆で「洋々美德」の題字を寄せられ、記念碑が建立された。同島は、平成5年7月の北海道南西沖地震、直後の大津波により、198名が死亡するなど大被害を受けた。中でも青苗地区は最大の被害を被つたが、岬の最先端に立つ記念碑は残つた。「ふるさと奥尻通信」平成18年7月5日付)に興味深いエピソードが載っている。威仁親王を接遇したさる住民の先祖が遭難事件の折、当時は芋しかなかったたので、親王にそれを差し上げたたら、バクバク芋を食つた、と語っていたそうだ。

奥尻島から江差に戻つた平成20年9月21日、江差町文化会館にて第46回江差追分全国大会決勝会を聴いた。安澤望(28歳)という地元女性が連続出場3回目で優勝の栄冠を獲得したが、多数の出演者の演奏を聴きながら同期会で会つた級友の顔や、奥尻島の風景が時折脳裏を横切つた。

#### 藤原(蝶野)倫子

同級生ということで夫婦で、初めて参加しました。予想以上の同級生たちと会えて嬉しかったです。高校時代にはあまり接点があつた方たちとも会話が弾み、時間があつたという間でした。世帯を超えてお話をしたのもこの会の魅力かと思ひました。余興のクイズは少し難しく、私たちのチームはほとんど不正解でした。先達さんと相談するもまた楽しかったです。来年はもう少しクイズを簡単にしたいです。18年後私たちが幹事やるのかね?とみんなで笑いながら話せたのが何よりでした。また、都合の許す限り参加したいと思ひます。ありがとうございました。

#### 東山峰子

初めて参加しました。想像していたよりも、クイズなどができました。またたく間に同期と久しぶりに再会し、とても懐かしく気持ちだけは学生のごころに戻っていました。来年も校歌を歌いに行きたいです。諸先輩方、ありがとうございました。

#### 小鹿由紀子

今回、初めて同窓会に参加しました。とても楽しい時間を過ごすことができました。今までこのような集まりが都内で行われたことを知らなかったのですが、今回関東在住の中部卒業生に会うことができ、こんなにたくさん同期生が近くでがんばっているんだなと知りとても励みになりました。

#### 松川文弥

今年は97期の同期生が10名も集まり、東京支部の同窓会&97期三同期会ができ、とても楽しく過ごせました。また、5、6年続けて参加しておりましたが、先輩方がほとんど変わらないうちにびっくりです。むしろ、より活気に満ちている感じがし、自分自身を奮い起してこれこれ頑張ろうという気持ちになりました。1年に1度、火柱のはためく峰・♪の校歌を歌うことで、あの時の気持ちに戻れて、いつも原点を思い出しています。20代、30代が今後増えて、年代を超えた大きな楽しい同窓会ができる日が楽しみです。

橋元内外特許事務所 神田オフィス  
 弁理士 橋元 正 (第71期)  
 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-34-6 吉田ビル6F  
 TEL 03-6206-0301 FAX 03-6206-0302  
 E-mail spha9c29@lion.ocn.ne.jp

一級建築士事務所  
 沖崎建築設計事務所 沖崎 剛 第69期  
 〒182-0024 東京都調布市布田1-26-12-319  
 TEL:042-488-3985 FAX:042-488-3986  
 e-mail:okizaki.takeshi@nifty.com  
 http://homepage3.nifty.com/okiz/



24hr 営業 迎車1kmまで710円 カードOK  
 各種のご利用をお待ちしております!!  
**千葉タクシー株式会社**  
 ☎0120-67-9121 TEL 04-7166-9123

**第71期東京地区同期会**

# 同期会だより

## 第45期 翠楊会

田沼修二記

大戦末期の昭和18年に函中を卒業した我々の翠楊会員二百三十余名は団結が堅い。今年の東京支部総会は例年通り、6月24日(水)NHK青山荘で開催、13名の出席会員は楽しく回顧談などに終始した。全員が間もなく85歳に達し、毎年5人前後を鬼籍に送る状況で、9月に函館で開く総会で終止符を打つ事とした。

名残は尽きないが、楽しかった函中時代の事、鬼籍に入った同期の友人の思い出を懐かしみ、更に健康に留意しつつ、近況報告だけは続けることとした。しかし東京支部の年一回の会合は当分続けることを決めて散会した。

## 第57期

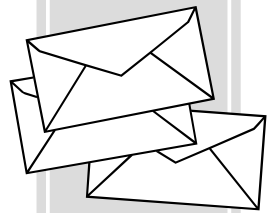
吉田精吾記

我が57期の多くが6度目の子年の節目となるのを機に平成20年9月30日(火)に浅草で開催した。浅草は半世紀以上も前に初めて上京した上野駅の近くにあり、関東



に住むようになった、いわば第二の故郷のルーツともいえるところだ。昔懐かしい場所でありながら、最近の賑やかさにはトンとご無沙汰していることもあって、会場の浅草セントラルホテルには29名(男性20名、女性9名)が馳せ参じた。

当初は懇親会に先立ち、雷門を始め、仲見世通りや浅草寺など昔ながらの美しい日本の心を今に伝える、東京のどこよりも粋な街を散策する計画を立てたが、下見をしたところ東南アジアを始め多国籍の異人たちのあまりの多さに、これでは散りぢり



りバラバラになること必定ということになり、止む無く断念、午後5時から会食となった。

開会に先立ち記念撮影。頭は薄いか白くなり、お腹はメタボも散見されるものの、心意気と元気さでは50年前といささかも変わらぬ面々が勢ぞろいした。四つの丸テーブルを囲んでビュッフェスタイルの洋風料理に舌鼓。アルコールは飲み放題といながら年とともに酒量は激減し、もっぱら高校時代の昔話や健康談義、さらには孫自慢?などに花を咲かせた。さらには有志の近況報告もあり、積もる話に大いに盛り上がり、心行くまで旧交を温めつつ予定の2時間をオーバーして7時30分、再会を約束してお開きとなった。

## 第63期 午末の会

福本元子記

私たちが年末の会東京支部では、40才の頃から毎年、春は日帰りのお集まり、秋は一泊の関西旅行をしています。今年も3月28日(土)、上野の精養軒で食事をしました。窓の外の桜を愛でながらの

フランス料理、皆さん良い年を重ねたと感じられる素敵なひと時でした。幹事はいつも小林さんで安定しています。



秋は、今年は11月27、28日、松山道後温泉とのこと、いつも依田さん幹事で、勉強付き、その上リツチで心に残る旅です。

それから特筆すべきは、午末の会では、2年に一度全国大会をすることになり、一昨年には札幌支部主催で、登別で行い。今年は東京支部主催で5月29日、31日、2泊3日で上高地、安曇野泊と東京泊をしました。上高地では雨にも

## 58歳が青春じゃ、可笑しいですか？

夢を広げてくれたアポロ11号の月面着陸

夢の中で聞いた糸居五郎のオールナイトニッポン

夢にまふ出て来た……溝江とペロ(豊岡)

72期生(昭45卒)諸君! おいでよ、今の夢を語りに。

〈72期生 東京幹事〉  
小林 繁治 村上 誠一  
笹川 浩史 村田 秀樹  
佐野 香苗 渡部 敏雄

〈広告協賛〉  
新宿御苑前  
渡部 総合法律事務所  
電話 03-3355-5415(代)



めげず河童橋周辺散策、2日目は東京で宴会、札幌、函館、新潟、三重と地方からも多勢出席して、それは、それは賑やかでした。再来年は函館支部主催で、中部高校卒業50周年記念の会になるそうです。私も久しぶりに函館に帰れることを今から楽しみにしています。



第67期「修学旅行よもう一度」

宮川憲司 記

中学の修学旅行の前夜、明日は鉄腕アトムの未来都市に居るのかと思うと興奮して一睡も出来ず。今思うと、地下鉄が空中でビルから出入りする渋谷の情景か。高校のそれは、夜行列車を乗り継いだその先で京都・奈良の歴史を刻むその姿に目を奪われたものだ。修

学旅行は大旅行。45年を経て、先の思い出が途切れ途切れにも今にのこる。

松田君の母上の遺品の中に、彼の高校時代の成績表や学園祭や運動会の資料がきちんと整理されていて、その中に修学旅行の葉があった。10日間に渡る日程や旅館など細かく記され、その懐かしさに仲間と話さずにはいられない。それがこの旅の始まりだった。

行ききの連絡船上で具合を悪くし、泣く泣く函館に戻されて参加出来なかった高橋君の話聞いた。札幌の西堀君が、修学旅行の再現を計画。彼らしい念入りな事前調査と豊かなアイデアで、昨年11月末、再びの修学旅行が行われた。

帯広から森戸、札幌から中野(佐藤)さん・西堀・高橋、函館から澤口さん・佐々木(西角)さん・塚原(渡辺)さん・小林(青木)さん・山崎・吉岡、東京から松田・私、香川から西村(阿部)さん、山口から原の優しき14人の仲間が集合した。

旅館は井筒安旅館。東本願寺に近く木造二階瓦屋根、連子格子に簾の現役で再び迎え入れてくれた。

名調子の姑殿がガイドで婿殿が運転手の観光バスでいざ出発。紅葉眩しい清水寺から観る京都の町、池に映える金閣寺。庵・詩仙堂の庭の美しさに見とれ、花見小



路は、三々五々お茶を楽しむ。紅葉の京都をゆつたりと満喫して宿に戻る。

夕食は漆お膳、男女交互の車座で、話は今昔を駆け巡り、時は更ける。枕投げの儀式もほどほどにして深い眠りに入る。

翌日は近鉄電車で一路奈良へ。伽藍美しき薬師寺。阿修羅の興福寺を経て東大寺へ、大仏との再会。柿の葉寿司で昼食後、法隆寺。五重塔・夢殿に旅の疲れを癒す。

感受性に溢れ、互いをいたわり気兼ねなく、ほのぼのとして穏やかな旅が出来たのは今の今だから。重ねた食事、幾重の会話と笑顔は、古都の美しさに見守られ、実に良き旅でした。西堀・高橋両幹事と同行写真家吉岡君に改めて感謝。



旧金森倉庫/T.Okizaki

第68期 よいよい会

木戸正文 記

毎年二回(1月と6月)首都圏在住者を中心として同期会を開催している。今年1月例会(新年会)は新宿三井ビル54階の「新宿三井クラブ」で1月24日18時から開催した。新たな出席は木村脩司君、田中恵子さん、久しぶりに長崎君、水谷君も出席してくれ、一年間の健勝を祈念して祝杯を挙げた。

6月例会(第二週の土曜日と決めている)は「何が起ころか、行く先不明のミステリーツアー」と銘打ち、アクアラインを経由して安房小湊までのバス旅行を企画した。

函館から佐々木まり子さんが参加してくれ、彼女の函館弁は何よりの大きな土産となり、道中楽し

「姉妹都市」  
函館市×ハリファクス  
(カナダ)

2010 バンクーバー  
オリンピック!!

四季を彩る至福の空間へ…

株式会社 計画機構 一級建築士事務所  
■建築設計・コンサルティング

alpha Conservatories Ltd.  
■ガーデンコンサルティング ■英国コンサバトリー設計、施工

株式会社 アルファコンサバトリーズ  
創業1874年 AMDEGAコンサバトリー輸入総代理店、  
B.D.G.コンサバトリー輸入代理店、建築設計・ガーデン設計

180-0022 東京都武蔵野市境1-22-9 ツインプレックスSA  
TEL.(0422)55-7940(代表) FAX.(0422)55-7960  
http://alpha-it.co.jp/ E-mail: info@alpha-it.co.jp

代表取締役 一級建築士 山田 朗 (73期)

KOA社屋 (長野県)



う映画を見ました。10年もの間一人の男性への恋心を心に秘めて：という物語でしたが、当時は「10年後」など想像も出来ない余りにも遠い未来に思えました。でもそれからもう45年！私は（そして同期の皆が）還暦を迎え、幸いにも毎日を穏やかに暮らしています。子ども達の独立、親の介護と見送り、転職、定年退職、誰もが多かれ少なかれ波乱のあった自分の生き越し方を振り返り、これからの人生を見直す年齢になった年の同期会。やっぱりそんな話題が聞こえていました。現実の生活とは少し距離のある、そしてそれでも心を開いて話し合える同期の仲間との再会はそれぞれ心に得るものがあつたことでしょう。

今年の71期大会は、6月27日に、地元在住の加藤（鳥田）由樹子さんのご推奨により、浦安市のスパ「ウインズラジャ」舞浜の一人が亡くなられ、開会の前にその方へ皆で黙祷いたしました。ぼつぼつと訃報が聞かれるようになりました。健康に気を配らなければならぬ年齢になったことを自覚しつつ次回を楽しみにしております。

今回の会は函館の同期会の幹事さんからの発案で、当日も函館から二人出席されましたが、いつものように東京の幹事さんのお世話を頂き、改めて感謝致します。

**第71期**  
加納元雄 記

い旅行となった。到着後、遊覧船で鯛の浦へ、その後、日蓮聖人の誕生寺へお参りをした。境内の鐘楼では此処に住まう大蛇（青大将、一尋はある）が出現、縁起がよく我ら一行に吉兆ありとのこと。

大ジャンプ。最前列に陣取った子供たちがボンチヨ（しじき避け）を着込みジャンプの水しぶきのたび大歓声を上げていた。同じく最前列で観覧していた及能君、桜井君の頭上にも容赦なく水しぶきが・・・。潮の香ただよう海の男の誕生となった。

またもう親兄弟もなく、当時住んでいた家も処分してしまった私には函館には「帰る」ところはありません。ところが今回の同期会で、「文化祭の準備の時、毎日皆でお前の家が集まったよなあ」と覚えていてくれた同級生と再会し、あの杉並町の家が心に蘇り、故郷に「帰った」気分になりました。久しぶりの同期会への出席でしたが、「ああ、ここに来れば函館で過ごした時代の記憶を共有できる人たちに会えるんだ。」と改めて思いました。

今年の一週間前に函館の幹事さ

「宴会は「おめでとうございます」の祝杯で開始、札幌の樋口隆士先生からのメールと写真（昭和39年10月31日撮影、2年6組修学旅行、於羽田空港）を回覧、近況報告など時間を忘れ歓談。二次会は場所を変えてのカラオケ大会。吉幾三直伝の白崎君の「とも子」「雪国」、及能、高橋君の「麦畑」等々。「目をつぶって聞けば、たいしたいいとの高い評価」をいただいた。

「よもやま話」で笑い転げられる仲間がいることは楽しくもあり、また嬉しいことである。次回、元気で会えるのを楽しみに東京駅で解散した。

会の一週間前に函館の幹事さ



翌日は鴨川シーワールドへ、巨大な水槽と淡水、海洋生物の生態展示が見ものだが庄巻はシャチの

**第69期**  
火ばしら会  
富尾泰子 記

高校時代に「10年の後」とい

舞浜ユーラシア屋上にて

**\*\* 79期の皆さん集合下さい！！**  
五十路になった皆様、ことしは親睦会の幹事です。東京暮らしが長くても、ふとした時に、‘なまら’とか‘あずましい’とかが口を付いて出る皆さん、是非我々で大いに盛り上げましょう。

**第33回親睦大会**  
日時：10月24日(土)  
於 霞山会館

**紙面への広告募集！！**  
「東京白楊だより」第33号・2010年8月発行予定  
お問い合わせ・申し込みは [kanchu-tokyo@r6.dion.ne.jp](mailto:kanchu-tokyo@r6.dion.ne.jp)

**火ばしら会**  
東京支部  
〈昭和42年卒業・69期〉



## 世代を超えた中部の絆 ～関東中部飲み会～

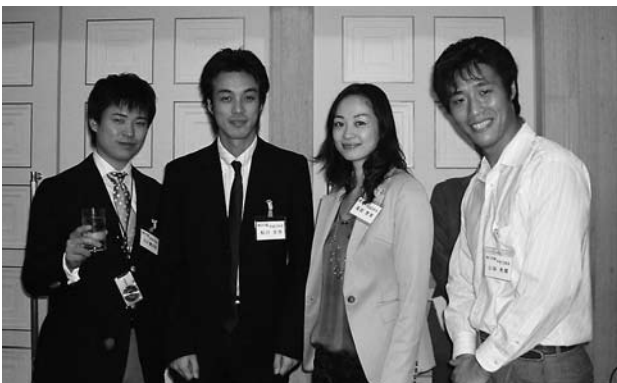
105期 小林 秀輝

2007年春、私は就職を期に東京に出てきました。就職先では自分がやりたかった仕事をできるだけ意気込んだ上京でしたが、研修中に病気のため入院・手術をした結果採用取り消しに…。失業して時間を持て余していた中、東京で知り合った98期の高波さんから「東京で中部の卒業生を集めて飲み会をしよう」という提案をいただき、共同幹事として飲み会を開催させていただきました。

今まで飲み会の幹事などをやったことがなかったのですが、インターネットを通じて参加者を募集し、2007年8月25日に第一回関東飲み会を開催しました。その結果、高校卒業以来に再会する同期から20歳以上年上の先輩まで、20名以上の幅広い世代の中部生が集まりました。参加者ほとんどが初対面ながらも、大学の体育会系部活のような盛り上がりとなりました。また、この飲み会での出会いは、社会から離脱しかけた自分を支えてくれる精神的な柱となりました。

以来、年に2回程度飲み会を開催し、2009年7月18日には第五回目を迎えました。東京で函館トーク（時折函館弁がはみ出します）という不思議空間が繰り広げられ、飲み会が終わる頃には初参加者もずっと前から知り合いだったような感覚になります。

この飲み会で71期から109期までの幅広い世代のたくさんの中部生と楽しい時間を過ごすことができ、飲み会を開催するたびに「中部高校に入って良かった」と改めて実感しています。「同じ高校出身」というだけで東京で人が集まり、昔からの仲間のような一体感を感じることが出来る「中部高校」という存在の偉大さと、この楽しい場を創り上げてくださる参加者の皆様に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。



左から97期大川さん、97期松川さん、98期高波さん、105期小林（筆者）  
(2008年親睦大会にて)

ユーラシア」で開催した。江戸川を越えることをためらったかお風呂に怯んだか、参加者は途中参加を含めて21人と若干少なかったが、それだけに皆打ち解けて久々の再会を喜び合った。

この施設は、温泉・マッサージュ・レストラン・宴会場にホテルまで付いた、スーパージェット・豪華版。一泊して翌日TDRを楽しんだ人もいたようである。温泉は色こそ透明だったが、元々ここは海の底だったせい

か、実家の谷地頭温泉のように塩辛かった。宴会場は子供の頃の会社の社員親睦会で連れられて行った、湯の川温泉の旅館を思い出させるものがあった。50年以上の時間と800キロ以上の場所を隔てても、やっぱり温泉には座敷の宴会場である。

話題はいつもと変わらず、病み自慢と子供の結婚と不況で厳しい仕事のこと等々。還暦を翌年に控え、まだ悠々自適には少し間があるものの、バリバリの現役と一歩退いた人々が、半々に入り混じっている。

温泉に浸かって、日頃の疲れといささか入れ過ぎたアルコールを発散させ、ようやく暮れなずんだ舞浜を後にした。

卒業以来、バラバラの私の期ですが、二度目の同期会を開く運びとなりました。

中には「おばあちゃん」になっている同期もいたりして、みな驚いたり興奮したり…。

会場は、高層ビルが乱立する大崎の、ちょっとおしゃれなアジアン・リゾート料理を提供するテラス…。遠くは弘前からの参加者もいて、青春時代にタイムスリップ…？みな十代に戻りました。どの顔にも優しい微笑みがありました。

### 第79期

西田勢津子 記



今年度の親睦会は、我が第79期が幹事を務めます。同期のみなさま、虎の門に全員集合！

### 物故者（敬称略）

謹んでご冥福をお祈りいたします。

- 船木 政司（45期・昭18年卒）  
平成20年8月
- 服部 英二（47期・昭20年卒）  
平成19年10月12日没
- 武田 好司（48期・昭20年卒）  
平成20年2月
- 柴田 啓次（51期・昭23・24卒）  
平成20年10月21日没
- 角谷紀元二（63期・昭36年卒）  
平成20年7月
- 島田 智剛（67期・昭40年卒）  
平成20年8月
- 笹森 暁（69期・昭42年卒）  
平成19年8月
- 山本（澤口）久恵（69期・昭42年卒）  
平成21年5月
- 吉田 元久（71期・昭44年卒）  
平成21年7月

\*年会費払込票及び大会出欠葉書にて、ご家族からお知らせのあった方です。

# 会員短信



平成19年9月以降の会費の振替用紙のメッセージから

●田熊国太郎 (33期昭6年卒) 去る9月9日の誕生日を以って満95才を迎えることが出来ました。多年に亘りお世話様になり厚く御礼を申し上げます。

●加藤 敏雄 (35期昭8年卒) 93才の後期高齢者で週3日のリハビリを受けて体調を維持して居る状況です。白楊ヶ丘同窓会東京支部だよりをいつも拝見いたします。

●高梨 良雄 (39期昭12年卒) 会員皆様のご健康をお祈り致します。小生、来年は90歳の(翁?)となります。早いもので、青山ホールでの同窓会が年々楽しくそうて華やかになって居るの嬉しいですね。老兵は今も欠席しますが、ご盛會を祈ります。

●多和田昭二 (46期昭19年卒) 81歳を越えましたが、医者に色々注意を受けながらも今の所、元気で暮らして居ります。会の発展を祈って居ります。

●小野寺吉彦 (51期昭23-24年卒) 安田支部長他、若返った役員皆様のご健闘を祈ります。

●柴田 啓次 (51期昭23-24年卒) 体調思わしくないので欠席します。三國さん、いつもごくろうさまです。

●長島 康 (52期昭25年卒) お世話になります。大変遅れて申し訳ありません。よろしくお願ひ申し上げます。

●高野 保 (52期昭25年卒) 「白楊だより」を懐かしく拝見いたしました。最近、函館関連の歴史に興味をもち、資料収集をやっております。

●入江 宏子 (54期昭27年卒) いつもお世話ありがとうございます。白楊だより、いつも懐かしい読んでいます。10月は帰函する予定です。

●高木 幸子 (55期昭28年卒) いつも御苦勞様です。あるようで楽しみにしております。御案内を頂きながら、ご無音のまま失礼いたしておりました。大変おそくなりましたが、会費お送りいたします。

●千代 宣義 (55期昭28年卒) 新年おめでとございます。今年もまた同窓会参加できます事、幸甚と存知しております。

●早乙女節子 (55期昭28年卒) 毎年白楊だより、楽しみに読ませて頂いています。今回の表紙の写真、又すてきですね！なつかしい写真(参加者の)も・・・ありがとうございます。

●藤本 一郎 (56期昭29年卒) 「東京白楊だより」第31号、楽しく拝見。欲を言わせていただくなら、キャプションを多く。例えばP4、P5。どの写真が何期のか不明。お世話になります。今年度会費を送金致します。

●飯田美津子 (59期昭32年卒) イタリア、トルコ、ギリシャとまわって帰国しましたところへ白楊だよりが届いており、東浦様の母校回顧を拝読、再びタイムスリップして、気持ちがあたたかくなりました。5月に孫を連れて主人と函館に行つて来ましたが、のんびり出来て、新しい校舎のグラウンドで様々なことを思い出して、古希もあつたという間と感じました。皆様お元気で。

●松谷 克 (59期昭32年卒) まだ忙しくてばたばたしております。会合に参加できず申し訳ございません。皆様によりしくお伝えさせていただきます。

●岩崎 英子 (60期昭33年卒) 幹事の皆様、いつもご苦勞様です。週末が忙しい仕事にまだ着いていないので、出席できません。が、今後共よろしくお願ひ致します。

●佐々木孝吉 (60期昭33年卒) 今年で満69才となります。70才以後の人生設計をどうするのか、混迷する時代にあつてなかなか難しいことです。

●上平 慶一 (60期昭33年卒) 白楊だより、楽しく読んでいます。心が青春時代へもどります。東京の同窓会もとても楽しそう、又出席したくなりました。故郷函館の発展を祈っています。

●伊藤 紀子 (60期昭33年卒) 卒50周年記念を函館の地で迎えることが出来て、心から皆さんに感謝しております。

●岩淵 安隆 (60期昭33年卒) 会報を楽しく拝見しております。函中三五会礼帳会が初めて9月5日に開催されました。

●村本 光彦 (61期昭34年卒) 高校卒業以来はじめての函館を母と弟達と訪ねました。ちようど9月14日に同窓会が五島軒であり、出席出来てもなつかしくうれしかったです!! 函館はやはりなつかしく素敵な町でした!!

●宮島 曉美 (62期昭35年卒) 幹事の皆様、これからも宜しくお願い致します。引越先の西府町は自然がいっぱいとのこと、サイクリングを楽しんでおります。

●中村 良誠 (63期昭36年卒) 角谷 紀元二 (63期昭36年卒) 生前は大変お世話になりました。有難うございました。(角谷いく子様より)

●石崎 篤子 (63期昭36年卒) 韓国出張の多いサラリーマン生活を送っていますが、韓国語は「アンニョンハセヨ、こんにちは」と「カムサハムニダ、ありがとうございます」しか話せません。

●浜岡興一郎 (63期昭36年卒) 今年度をもつて退会させていただきます。いつもご苦勞様です。

●紺野 洋 (64期昭37年卒) 34期東浦先輩、52期福津先輩の母校回顧と思い出を我々の代よりさらに昔の事として興味深く拝読させていただきました。福津先輩の次号を楽しみにしております。安田康次 新東京支部長を同期の1人として、又、志丸会のみならず共に気持ちだけではありませんが、応援しております。

●相馬 研二 (67期昭40年卒) 本年は残念ながら出席出来ません。卒業後初めて同期会に出席しました。月日が過ぎるのは速いものですね。

●二上 朝文 (68期昭41年卒) お世話になります。会報をいつも懐かしく拝見しております。ありがとうございました。

●吉野 和子 (68期昭41年卒) 東京白楊だより、いつも楽しく拝読しております。幹事に編集、本当に御苦勞様です。残念ながら今回は先約と重なり出席できませんので皆様によりしくお伝えさせていただきます。

●小川 眞哉 (68期昭41年卒) 還暦を迎え、時間にゆとりが出来るとやはり思いつくのは函館の高校時代です。今年も是非、親睦会に参加し、諸先輩、後輩の顔を見たいと思っております。

●奥野 政博 (69期昭42年卒) 59才を過ぎ、元気で充実した毎日を送っています。

●高藤 裕子 (69期昭42年卒) 会報を送っていただき、ありがとうございます。大変なつかしく、同窓会のこと、函館のことと思っております。皆様、どうぞお元気で!

●川村 哲雄 (71期昭44年卒) 平成20年度同期会を6月21日パセラ・リゾート銀座店で開催しました。参加者は1次会・2次会合わせて29名。例年より1時間早い午後3時よりの開会でしたが、3次会まで15名が残り、それでも何とか皆さんが終電で帰ることが出来た延々8時間余の宴でした。

●須貝友紀子 (72期昭45年卒) 写真を見てなつかしい顔を捜しています。楽しい会報ありがとうございます。

●長野 英幸 (72期昭45年卒) 遅れて大変申し訳ありません。あと3年で定年なのに毎週出張で働かされています。佐野さんののはのほの文をいつも楽しく読んでいます。幹事さんに感謝!

●清水 恵子 (73期昭46年卒) 同期の黒田信彦さんが校長先生に就任のニュースは嬉しい驚きでした。同窓会の話題もこれで盛り上がることでしよう。頑張ってくださいね。

●高田 恵子 (73期昭46年卒) 卒業以来、長い間ご無沙汰していた函館です。東京で同窓会(親睦会)があることを知り、とてもなつかしくうれしくなりました。これからよろしくお願ひいたします。

●中村 三保 (76期昭49年卒) いつも、白楊だより、ありがとうございます。今年も職場の高校の文化祭にぶつって出席できません。宜しくお願いいたします。

●廣林 範彦 (78期昭51年卒) 初参上です。今後ともよろしくお願ひいたします。会報を拝読し、諸先輩の御活躍に敬服致しております。同窓会の益々の繁栄をお祈りし、ご尽力下さっている皆様へ御礼申し上げます。

●梅本 慎一 (78期昭51年卒) 単身赴任が終わり、さいたまへ戻っています。明治大学法科大学院教授と慶応義塾大学法学部講師を兼務している旨があります。

●石田 人士 (81期昭54年卒) 現在、筑波大学3年です。事務局長の皆さん、いつもありがとうございます。順天堂大学スポーツ健康科学部健康学科1年。硬式野球部で頑張っています。

●山本 晃平 (108期平18年卒) 現在、筑波大学3年です。事務局長の皆さん、いつもありがとうございます。順天堂大学スポーツ健康科学部健康学科1年。硬式野球部で頑張っています。



## 平成21年度 評議員会報告

日時・平成21年4月21日(火)  
場所・インテリジェントロビー・ルコ  
出席者・30名

会議に先立ち、安田支部長から「新体制で各種の行事を分担して実施している。不慣れな点などもあるうかと思うが、引き続き、各位の御支援により会を盛り上げていきたい」との御挨拶があった。

以下の議案について審議し、全議案とも承認された。(議案は当日、加納副支部長が欠席のため、平成20年度収支決算報告を除き、白川理事が説明。)

平成20年度収支実績および 平成21年度予算(単位:円)			
		20年度実績	21年度予算
収入の部	年会費収入	1,956,000	2,100,000
	大会費収入	1,296,000	1,296,000
	会員からのご寄付	146,000	100,000
	会報広告収入	0	100,000
	その他	100,085	100,000
	合計	3,498,085	3,696,000
支出の部	大会関連費用	1,487,312	1,500,000
	会報関連費用	872,009	870,000
	諸会議費	149,676	160,000
	通信運搬費	186,690	190,000
	本部派遣費	222,580	223,000
	事務所諸費	300,000	300,000
	その他	357,882	423,000
	合計	3,576,149	3,666,000
差引収支残		▲78,064	30,000
次期繰越剰余金		4,671,237	4,701,237



- 平成20年度事業報告  
親睦大会、会報、HP、渉外活動、同好会活動等。
- 平成20年度収支決算報告  
(片瀬理事)  
年会費納入(652名)、会員の皆様からのご寄付、運営費の節減努力を行ったが、差引収支残(▲78,064円)。真船監事による監査結果を小泉監事から報告。
- 平成21年度事業計画案  
親睦大会、会報、HP、渉外活動、同好会活動等。  
今年度親睦大会は79期の企画運営で例年と場所を変え、「霞山会館」で開催。
- 平成21年度収支予算案  
昨年度の実績を参考に収支均衡予算とする。  
会報に広告宣伝を載せて収入増を図る方策を予算化。広告出稿に関しての会員各位の御支援をお願いする。
- 役員の変動の件  
昨年度の評議員会以降、75期高橋日出樹氏が新たに評議員に就任されたことを報告。  
51期船木政司氏は御逝去につき評議員名簿から削除。  
全体を通しての質疑では、52期の福津評議員から、支部事務所の件で、「7年前から『あすの道南を拓く会』にて、数校で共同事務所を持つべく検討してきたが実現しなかった。空いているときに使って頂いた『創竜社』も次の世代に移っているため、この辺で区切りとし、長期に活用できる場所の検討をお願いしたい」との、これまでの経緯について、御説明があった。  
引き続き、同会場において会費制で懇親会を実施した。

76期 白川 正広 記

## ご寄付御礼

●昨年度は28名の方からご寄付を頂戴いたしました。お名前を掲載して御礼に代えさせていただきます。(敬称略)

昭和6年卒(33期) 田熊国太郎  
昭和8年卒(35期) 加藤敏雄  
昭和10年卒(37期) 風間富吉  
昭和12年卒(39期) 高梨良雄 前田徳尚  
昭和13年卒(40期) 今井清 外山源一郎  
昭和16年卒(43期) 井筒吉彦 内海孝 梅崎総一  
神山茂郎  
昭和17年卒(44期) 渡辺紘一

昭和18年卒(45期) 石田準之助 伊藤貞男 川田陽吉  
田沼修二 土田日出男 中野忠彦  
橋場邦武  
昭和19年卒(46期) 岩沢弥之助 小泉道義 渡辺保二  
宇野浩 多和田昭二 古川龍之介  
昭和20年卒(47期) 堀田善和  
昭和34年卒(61期) 金子公彦  
昭和40年卒(67期) 安田康次

当支部の財政状態はまだひ弱で、本年も引き続き会員の皆様のご寄付を募っております。お志のある方は、ご協力をお願い申し上げます。

【取扱金融機関】郵便局  
【口座番号】00190-1-124291  
【名称】白楊ヶ丘同窓会東京支部  
【振込用紙】郵便局備え付けの用紙をご利用ください。

# 白楊ヶ丘同窓会東京支部 第33回親睦大会案内

2009年10月24日(土) 午後2時～

霞山会館 会費：8,000円

学生は無料(ただし年会費3,000円納入者のみ適用・当日会場での納入可)

今年度の親睦大会は、第79期(昭和52年卒)が担当致します。幹事期を引き受けて初めて同期会等を催し、はるか遠い高等学校時代を意識し始めた次第です。

目を閉じて、当時に思いを馳せますと浮かんで来るのは修学旅行のワン・シーンでした。京都・嵐山近くを見学するも、突然の雨に驚き、小走りに戻ったバスの中で聞いた歌：もの悲しい旋律に乗って流れる「シクラメンのかほり」の詩の切なさ、青春のほろ苦さに繋がって参ります。

あれから早や30余年の歳月が経ちましたが、皆、ただただ夢中で生きて来たに相違ありません。さて、今年度の企画としましては、「きむら啓子民話ひとり劇場」を予定しております。

今回は、きむらさんお一人ではなく、「朗読アンサンブルれもんのか」・劇団檸檬座の方々も応援の出演をして下さるそうです。

函中の濃厚な歴史と伝統溢れる親睦会に、是非とも皆様お誘い合わせの上、ご参加頂きたく、お待ちしております。

79期 西田勢津子

## かざん 霞山会館 ご案内



### ■ 霞山会館

〒100-0013

東京都千代田区霞が関3-2-1

霞が関コモンゲート西館

(霞山会館ビル) 37階

電話：03-3581-0401

### 【地下鉄】

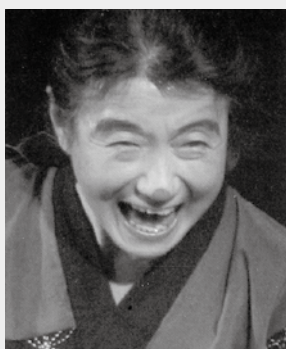
○銀座線／虎ノ門駅 11番直結

○日比谷線・千代田線／霞が関駅  
A13番 徒歩4分

○丸の内線／霞が関駅 A4番  
徒歩7分

○南北線／溜池山王駅 8番  
徒歩8分

※西館メインエントランス(2階広場レベル)よりエレベーターをご利用ください。



### きむら啓子 プロフィール

「きむら啓子民話ひとり劇場」のタイトルで例年多くの単独ステージ公演を重ねている朗読女優。日本女子大学卒。幼稚園教諭・保育園保母資格所持。教育現場から依頼され日本や世界の民話の子ども向け巡演も多年行う。特に出身地の北海道や地元千葉県下での幼児、小学生向け舞台が多い。

門付け・放浪芸や、漁師や農民でありながら芸能鑑札を持った人々の芸を身に付けたいと研究を重ねている。

### ●きむらさんからのメッセージ

私は民話旅芸人！

民話を中心に「日本人のこころの世界」をわかり易い内容でお伝えします。

旭川生まれで、札幌育ちの道産子です。父は明治の初期に祖父が屯田兵で入植した釧路厚岸の生まれ。母は函館に生まれ育ち、後に湯の川小学校に教師として勤務し、そこで父と巡り会ったそうです。今で言えば、教師同士の職場恋愛？

わたしの体の中には、北海道の風土に培われた道産子の血が流れています。

幼い頃から母には函館の話や沢山ききました。朝早くに「いがーいがー」と売りに来て朝食にイカを食べたとか、五稜郭の桜はすばらしくて、札幌の山桜とは大違いだなどとふるさとの自慢をしたものです。

今回は、その函館のご縁で皆様にお目にかかり、民話の温かさや面白さをお伝えします。きっと、離れたふるさとの人々の温かさを想い出されることと思います。

お会いするのを楽しみにしております。

きむら啓子

### 編集後記

今回、初めて編集の作業に携わりましたが、なかなか全体観がつかめず思ったように作業を進めることができなかつたと反省をしています。いつも、手元に当たり前に届くこの会報が多くの人の手により成り立っていることを実感でき、これまで以上に身近に思える冊子となりました。来年また編集を担当できたら、いろいろと工夫したいことなどが見えてきたので、次回に向けてよい経験ができたのではと思います。

(朝緑高太/99期)  
就職を機に上京し、白楊ヶ丘同窓会関東支部に参加し始め3年目を迎えました。先輩方とも親しくさせて頂いたように、また年々若い世代も増え、親睦大会に参加する楽しみが増しているように感じています。今年も新しい仲間と出会えることを楽しみにしております。

(小林秀彦/105期)  
今回からこの会報作りは若者の助っ人が加わりました。初回から大幅に紙面の一新を計ることは難しく、次号以降の斬新な紙面をどうぞご期待ください。  
新しい試みとして広告掲載を始めた。ご協力くださった皆様に心から御礼申し上げます。  
これからも会員の皆様の暖かいご理解と協力をお願い致します。(一)

### 東京白楊だより 32号

発行

白楊ヶ丘同窓会東京支部

発行人

安田 康次 (67期)

編集

梅田 やよい (69期)

発行日

平成21年8月29日

【東京事務所】

〒160-0022

東京都新宿区新宿1-13-302

TEL 03-3335-1183 03-3335-2162 03-3334-1150 03-3334-1504 03-3334-1801